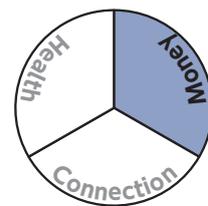


アジア・新興国 ～南ア・ランドに「変異種」という新たな敵～



経済調査部 首席エコノミスト 西濱 徹(にしはま とおる)

世界経済を巡っては、新型コロナウイルスのパンデミックを受けて大きく下押し圧力が掛かったが、その後は経済活動の再開などを受けて回復の足取りを強めてきた。しかし、欧米など主要国での感染再拡大を受けて行動制限が再強化されるなど、景気回復に冷や水を浴びせる懸念が出ている。他方、国際金融市場は全世界的な金融緩和により『カネ余り』の様相が一段と強まるなか、ワクチン開発による世界経済の回復期待を理由に活況を呈している。さらに、国際金融市場の活況を受けて、一部のマネーは新興国に回帰する動きをみせるなど、実体経済と対照的な動きが続いている。

南アフリカでは昨春以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた経済及び財政の悪化を理由に相次いで格下げが行われ、すべての格付機関が「投資不適格」とするなど長期資金が流入しにくい状況にある。しかし、国際金融市場の活況を背景に資金が回帰する動きがみられ、結果的に通貨ランド相場は強含む展開が続いている。なお、同国では都市封鎖による封じ込めを図るとともに、感染者数の頭打ちを受けて財政及び金融政策による景気下支えに動いた。こうした取り組みに加え、世界経済の回復期待も追い風に同国でも製造業を中心に企業マインドは大きく改善するなど景気の底入れを示唆する動きがみられた。さらに、国際金融市場が『リスク・オン』の様相を強めたことも相俟ってランド相場を押し上げる展開が続いた。

ただし、南アフリカでは昨年末にかけて新規感染者数が再び拡大傾向を強めている上、感染力の強い「変異種」が発見されるなど、世界的な感染再拡大の「元凶」となりつつある。新規感染者数の拡大を受けて、累計の感染者数は100万人を上回っているほか、足下では死亡者数も拡大傾向を強めるなど事態は急速に悪化している。よって、感染収束に向けて都市封鎖をはじめとする行動制限の再強化に動かざるを得ない事態も懸念される。

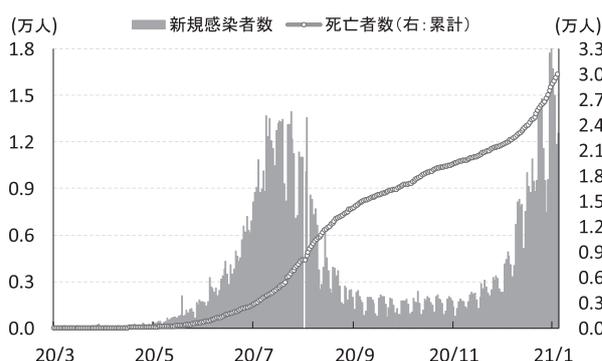
同国では、低迷が続く観光関連産業や外食関連産業を後押しすべく、保健衛生上の手続きと陰性証明を条件にすべての国との往来解禁に動くなど、幅広い経済活動を『平時モード』に戻す動きが進んできた。しかし、同国に由来する変異種の誕生を受けて、多くの国が渡航の受け入れを一時停止するなど、政府の思惑は早くも崩れている。さらに、感染再拡大を前に企業マインドは早くも頭打ちしており、一段と悪化することで景気底入れの動きに冷や水を浴びせる懸念も高まっている。このところの国際金融市場の活況は短期志向の強い投資家の動きを活発にしているとみられる。こうした動きが、すべての格付機関が「投資不適格」としている同国への資金流入を活発化させ、ランド相場の堅調に繋がっているとみられる。しかし、先行きについては新型コロナウイルスの動向如何で上下双方に動きが強まる可能性があることに注意が必要と言えよう。

資料1 ランド相場(対ドル)の推移



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成

資料2 新型コロナの新規感染者数及び死亡者数(累計)の推移



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成